

パグ アサ

PAG-ASA

JFC 奨学金基金報告

パグアサー 夢・希望
2018年3月

【新JFC奨学生候補 ハルミ・トミタさんへの家庭訪問】

社会的・経済的状況



JFCハルミ・トミタさん一家が暮らす家は全面コンクリートでできており家の中には居間、子ども四人の寝室、物置部屋があります。この家はJFCの現在のフィリピン人の父親の妹の家であり一家は六年ほど前から住んでいます。その妹は現在、ドバイで暮らしていますが、帰国間近であり、家族は歩いて五分ほどのフィリピン人継父の家に引っ越し予定ですが、家の外面は木材、屋根はトタンでできており、雨の日は雨漏りをします。床は大人が歩くとへこむ程の厚さの板でできて

います。現在の家と比べ非常に狭く、家の中に子どもたちが勉強するスペースはなく、ハルミさんにどこで勉強するのかと尋ねると床で勉強をすると答え、またフィリピン人継父の寝室に四人で寝ることになるので子どもたちの今後の成長を考えると不自由な生活になることは決定的です。またキッチンや水道はないため、この家の建物の隣に一人で住む継父の妹の家を利用させてもらう事になるそうですが、彼女はハルミさんの一家に対して協力的ではないそうです。

家族は、長女であるJFCハルミさん（12歳）と母親ルーデスさん（40歳）、継父（56歳）とその間に生まれた3人の子ども（次女；10歳、長男；9歳、次男6歳）の計6人家族です。母親ルーデスさんには、遠方に住む母親、二人の兄と姉がいますが、姉以外とはコミュニケーションはなく、姉とも電話による相談のみで、金銭的援助は受けていません。また継父には5人の兄弟がいるがその母親の介護をするのは継父のみです。

一家はドバイに暮らす現父親の妹から送られる毎月5000ペソほどの仕送り（母親の介護費としての意図が大きい）とルーデスさんのアルバイトによる月収2000ペソで生活しており、この中から毎月の食費3000ペソ、電気代800ペソ、水代500ペソ、子どもの交通費や食費として200ペソほどお小遣いとして渡し、残りを介護などその他の費用として充てています。お金が足りなくなった場合には、母親がハルミさんの事情を知る友人から経済的支援を受けることがあります。よって継父のドバイに住む妹からの金銭的援助に依るところが大きく、経済的支援を断たれた場合、一家は困難に陥る可能性があります。また彼らは健康保険も有していないため、家族が病気になる場合、大きな危機に直面することになります。





継父は、以前は定職に就いていましたが解雇され、現在は彼の母親の介護のため仕事はしていません。ルーデスさんは、週に二日、土曜日と月曜日、朝9時から夜9時まで家から歩いて5分ほどの洋裁工場でアルバイトをしています。彼女がアルバイトの時は継父が子どもたちの世話をしますが、母親の介護のために家を離れるときは家には子どもたちのみとなるのが家族の大きな不安です。

JFCの状況

現在は12歳であり、公立のポロ・ナショナル・ハイスクールの一年生です。彼女は、シャイで物静かな性格ですが、年下の兄弟たちの世話や皿洗いや家族の手伝いを積極的に行い、母親が家に持ち帰ってきた洋裁の仕事を手伝う様子が見ることができました。また非常に勉強熱心であり、成績も良く、学年でも常にトップクラスを維持しており、学校では友達とも仲が良く、家に招くときもあり、母親いわく友達という時は、とても楽しそうに過ごすそうです。なので、学校に行き勉強をし、友達と過ごすことが彼女の今の心の拠り所であると感じました。将来は貧困に困る人や病気の人々を助けるために医者になることを目指しています。ルーデスさんは彼女の義母と子どもたちとの同居を不安視しています。日本人の父親に対しては、あまり記憶がないそうですが、養育費の支払いなど援助の提供を求めています。JFCネットワークには、父親との結びつきを求めることや奨学金による援助の機会を与えてくれるよう期待しています。

評価・推薦

経済的にも環境的にも圧迫された状況の中でハルミさんとその兄弟たちが暮らしていくリスクは非常に重大なものになります。ルーデスさんは、海外へ出稼ぎに行くことも考えましたが、子どもたちがまだ小さいため心配であり、難しいそうです。またJFCも母親の苦労や一家の状況を理解し、気遣い心配しています。ルーデスさんは、日本人の父親と連絡がつかなくなった当初は途方に暮れていたそうですが、マリガヤハウスに参加し、他のクライアントとの交流を持つことで、前向きな変化が見られました。ハルミさんはマリガヤハウスが家から遠く行った経験はありませんが関心はあり、奨学金による援助とマリガヤハウスでの他のユースたちとの交流を持つことになれば、母子にとって精神的に大きな支えになると考えられます。ハルミさんはマリガヤハウスに対して、日本人の父親からの養育費請求の援助と奨学金提供による学業の継続ができるような支援を強く求めています。今回の奨学金を求める彼女は勉強が好きで、今後も継続して勉学を続けていきたいと強く願っています。彼女と母親の望みも一致して学業を継続していくことです。現在は公立の学校に通っているため授業料はかかりませんが、大学へ進学した際には、授業料等の学費が必要となるため現在の経済状況では大学への進学は厳しい状況です。彼女が学業を継続的に進んでいくことが出来れば安定した職業に就くことは十分に可能であり、そうなれば彼女自身が経済的に自立した生活を送っていくことも十分可能です。

